



神奈川の風



平成29年3月9日号

校長 吉江 明洋

< 卒業式を迎える今 >

28年度の3年生161名の皆さんは明日10日(金)に、第67回となる卒業証書授与式を迎え、長い歴史を重ねて送り出してきた22,616名の卒業生の一員となります。

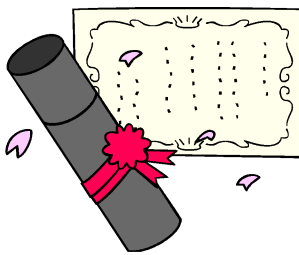
この3年間、「神奈川の風」を通じて、君達の活躍や、中学生として、また人として、こうあってほしいことなどを様々に綴ってきましたが、どのように受け止めてくれたのでしょうか。



これからの人生で、「そういえば中学校の校長がこんなこと言ってたなあ」と、一言でも心の隅に残っているものがあれば幸いです。きっと今よりも、大人になってから実感することの方が多いたとは思いますが、そんなときは、あなたの子どもに語ってあげてください。

今、時代の流れの中で、世の中や人の考えもどんどん変わっているように見えますが、人として大切にすべきものは何も変わっていないと思います。私が言い続けてきたことは、これから先、どんな時代になっても、けっして色あせない不変の心だと信じています。

さて、君達はいよいよ義務教育修了者となります。卒業証書は、国民として最低限必要な力が身についた証^{あか}として渡されるものです。これからは、さらに自己責任が重くなる年代となり「まだ中学生だから」と甘えさせてくれた良いことも悪いことも、すべて自分の責任として受け止め、自分が始末しなければなりません。自分の言動がそのまま自分に跳ね返^はってくる言い訳^{わけ}のきかない厳しい世界へ踏み出すのです。その覚悟ができていますでしょうか。



卒業生が久々に来校して話す中に「高校の先生って冷たいんだよな～」との言葉をよく聞きます。それは高校の先生が冷たいのではありません。君達を大人として扱^{あつか}い接しているだけです。もし、冷たいと感じる場面があるとしたら君の意識が甘すぎるのです。他人のせいにしては、心の成長はありえません。

そこで、毎年私が卒業生に必ず贈る言葉です。『自由とは、責任を果たしている者のみに与えられる』『権利とは義務^{すいこう}を遂行している者が勝ち取るものである』。

逆の言い方をすると、責任を果たしていなければ自由は制限される。義務を遂行していなければ権利は主張^{しゅちやう}できない、とすることです。「自由と責任」「権利と義務」は、セットになっていることを絶対に忘れないでほしい。そして、伝統ある神奈川中学校の卒業生として自信と誇りを持って新しい道へ踏み出してほしいと願っています。

君達は素晴らしい伝統を築き、後輩へバトンタッチしてくれました。そんな君達は、私達教職員の誇りです。在校生と共に、全員で心をつなげた感動ある素晴らしい卒業式にしましょう。

卒業おめでとう！